

2024 年度

コミュニティソーシャルワーカー(CSW)
スキルアッププログラム シラバス

東北学院大学

1. 本プログラムの目的について

地域資源を有効に活用した地域の福祉力活性化を達成するためには、関係者・関係機関等との連携を図るコーディネーター（コミュニティソーシャルワーカーなど）の実践力向上が重要です。

本プログラムは、宮城県社会福祉協議会や仙台市社会福祉協議会等と連携し、現場の課題に直結する新しい授業内容をもって、まちづくりのキーパーソンとなる「コミュニティソーシャルワーカー（CSW）」の実践力をスキルアップさせるものです。

2. 本プログラムのカリキュラムポリシーについて

本プログラムは以下のカリキュラムポリシーによりプログラムを編成しています。

(1) 基礎科目

福祉政策の動向や最新の理論研究の流れを踏まえて、地域福祉の基礎を学ぶ。

(2) 必須理論

地域の姿を把握する方法を学修するとともに、
地域福祉活動計画の策定方法等を実践的に学ぶ。

(3) 実践技法

他者と協働するための知識や技法を学び、
地域社会を構成する多様な関係者との協働を促進させる技術を修得する。

(4) 特論演習

地域における様々な支援事例をもとに、
多面的な角度から地域福祉のあるべき姿を総合的に検討する。

(5) 事例研究

地域福祉の現場で実際に起きた事例を実務家が紹介し、様々な角度からその実例を研究する。

3. 修了要件と履修証明書の交付について

本プログラムは、学校教育法第 105 条等に基づく履修証明プログラムであり、文部科学大臣から「職業実践力育成プログラム（BP）」に認定されています。プログラムを修了するためには、120 時間以上の授業を履修し、各科目において提出するミニツツペーパーの点数が 60 点以上であり、かつ報告会で合格の評価を得ることが必要です。全ての修了要件を満たした者に対し、履修証明書が交付されます。

科 目 と 講 師 一 覧

区分	科目名	講師	ページ
必修科目	基礎科目	地域福祉の時代とコミュニティソーシャルワーク	1
		コミュニティソーシャルワークⅠ・Ⅱ	2
		ケースワーク	3
		社会保障制度の新たな動向Ⅰ・Ⅱ	4
		コミュニケーション基礎論とICT活用	5
	必須理論	データによる社会調査・分析（社会疫学）Ⅰ・Ⅱ	6
		データによる社会調査・分析（ライフストーリー聞き取り）Ⅰ・Ⅱ	7
		地域の施策と資源理解Ⅰ・Ⅱ	8
		地域社会とCSR（企業の社会的責任）	9
		組織運営	10
		地域福祉活動計画Ⅰ・Ⅱ	11
		地域アセスメント	12
選択科目	実践技法	地域福祉とファンドレイジングⅠ・Ⅱ〔遠隔授業〕	13
		協働の手法Ⅰ・Ⅱ	14
		ファシリテーションの実際とワークショップ運営	15
		健康格差論	16
		傾聴の技法	17
		コミュニティビジネス	18
		臨床宗教学（聴くことのカーカフェでもんくの事例から）	19
		対人コミュニケーションと心理的援助	20
		発達障がい者支援	21
		ソーシャルワーク・スーパービジョン	22
		認知症の理解と地域支援	23
		非営利とは何か―生活と生業の支援から考えるボランティアの臨界	24
	特論演習	特論演習：高齢者支援と地域社会	25
		特論演習：生活困窮者支援と地域社会	26
		特論演習：子育て支援と地域社会	27
		特論演習：障がい者支援と地域社会	28
		特論演習：精神障がい者支援と地域社会	29
		特論演習：SDGsと地域社会	30
		特論演習：災害とコミュニティソーシャルワーク	31
		特論演習：三次救急病院からの地域移行支援	32
	事例研究	事例研究：仙台市におけるコミュニティソーシャルワーク	33
		事例研究：南三陸町におけるコミュニティソーシャルワーク	34
		事例研究：柴田町におけるコミュニティソーシャルワーク	35
		事例研究：地域活動とコミュニティソーシャルワーク	36
		事例研究：成年後見制度とコミュニティソーシャルワーク	37
		事例研究：東京都豊島区におけるコミュニティソーシャルワーク〔遠隔授業〕	38
		事例研究：ボランティア活動支援の実際	39
必	中間報告会（グループワーク）		40
	最終報告会（グループワーク）		41

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス				
授業開講年度	2024年度				
科目分類	基礎科目				
必選区分	必修科目				
科目名称	地域福祉の時代とコミュニティソーシャルワーク				
担当者	阿部重樹【学校法人東北学院】: 2コマ(3時間)				

テーマ	・自助・共助・公助の福祉ミックス ・地域福祉をめぐる政策の動向	
講義内容	1990年代に入り加速化した福祉改革により地域福祉の時代を迎えることとなりました。これら福祉改革の集大成として位置づけられる社会福祉法の制定(2000年)を契機として、ここに本格的な地域福祉の時代の到来が宣言されたといえます。この社会福祉法に規定された地域福祉計画、地域福祉活動計画の策定の過程において、コミュニティソーシャルワークの重要性もまた再認識されることとなりました。これらの背景となったノーマライゼーション理念の浸透、高齢本格的な高齢社会の到来、新たなサービス給付と負担の関係構築、自助、共助、公助の福祉ミックス等の政策動向を学ぶとともに、その中にコミュニティソーシャルワークのもつ意義を学びます。	
達成目標	2010年以降の人口減少・少子高齢社会の急速な進展を背景として迎えた、新しい地域福祉の時代におけるコミュニティソーシャルワーカーに対する社会的要請を、いろいろな角度からへの理解する。また、多様な状況の変化の中で、コミュニティソーシャルワーカーが果たす機能と意義について理解する。	
授業計画	授業計画第1回	はじめに 一慈善組織協会(Charity Organization Society:COS)と方面委員制度をめぐって一
	授業計画第2回	福祉ミックス(自助・共助・公助)、福祉多元主義と地域福祉 一人口減少・少子高齢社会の進展を背景として一
学修に必要な準備	準備は特に必要ありません。	
テキスト	特に用いません。授業の際にプリントして配布する講義資料とパワーポイントのスライドを利用して、授業を行います。	
履修上の注意	授業テーマごとのそれぞれの授業内容について、理解が確かなものとなるように、授業終了後の復習に取り組むようにして下さい。	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業
備考		

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス				
授業開講年度	2024年度				
科目分類	基礎科目				
必選区分	必修科目				
科目名称	コミュニティソーシャルワークⅠ・Ⅱ				
担当者	村山くみ【東北福祉大学】: 4コマ(6時間)				

テーマ	コミュニティソーシャルワーク	
講義内容	この講義では、地域を基盤としたソーシャルワーク(＝コミュニティ・ソーシャルワーク)の必要性を学ぶとともに、その基礎理論であるジェネラリスト・ソーシャルワークについて学習します。また、地域を基盤としたソーシャルワークを推進するためのプロセスとその方法(ケアマネジメント、グループワーク、コミュニティワーク等)について学習を進めていきます。	
達成目標	1. 地域を基盤としたソーシャルワークの必要性を説明することができる 2. 地域を基盤としたソーシャルワークを推進するための方法を説明することができる	
授業計画	授業計画 第1回	地域を基盤としたソーシャルワークの必要性を理解する 地域を基盤としたソーシャルワーク(＝コミュニティ・ソーシャルワーク)の必要性について学びます
	授業計画 第2回	ジェネラリスト・ソーシャルワーク ソーシャルワークの基礎理論であるジェネラリスト・ソーシャルワークについて学習します
	授業計画 第3回	コミュニティソーシャルワークを推進するための方法① コミュニティソーシャルワークを推進するための方法について学びます
	授業計画 第4回	コミュニティソーシャルワークを推進するための方法② コミュニティソーシャルワークを推進するための方法について学びます
学修に必要な準備	特に必要な準備はありません。	
テキスト	テキスト:テキストは特に使用しません。使用する資料は授業の際に配布します。 参考文献:授業の際に適宜紹介します。	
履修上の注意	授業終了後は、授業で使用したプリント等を読み返し、理解を深めるようにしてください。	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業
備考	授業はプレゼンテーションとハンドアウトを使用して行います。	

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス				
授業開講年度	2024年度				
科目分類	基礎科目				
必選区分	必修科目				
科目名称	ケースワーク				
担当者	竹之内章代【東北福祉大学】:2コマ(3時間)				

テーマ	・個別支援 ・相談援助、面接技術		
講義内容	地域における支援は、地域という大きな括りだけでは支援は完結しません。その地域に暮らす住民一人ひとりのニーズの上に、その地域への支援が考えられているのです。そこで、この講義では、地域における住民への相談援助や個別支援の意義と役割、その支援技術について学びます。社会福祉の援助技術であるケースワーク(個別援助技術)の史的展開、その定義にふれ、その上で具体的な援助方法について学び、面接のロールプレイを通じて技術の習得を進めていきます。		
達成目標	個別援助技術であるケースワークの意義と役割が理解でき、説明できる。また、ロールプレイなど体験型の学習を通して、その技術を実際の活動の中で実践できることをめざす。		
授業計画	授業計画 第1回	①社会福祉の援助技術における「個別援助技術」とは何か ②援助技術の史的展開 ③個別援助技術とは(意義と役割) ④面接の技法	
	授業計画 第2回	①個別支援技術の実際 ②事例を通して考える～ロールプレイを通じて学ぶ	
学修に必要な準備	特にありません。		
テキスト	授業で必要な資料を配付します。		
履修上の注意			
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業
備考			

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス				
授業開講年度	2024年度				
科目分類	基礎科目				
必選区分	必修科目				
科目名称	社会保障制度の新たな動向Ⅰ・Ⅱ				
担当者	阿部裕二【東北福祉大学】:2コマ(3時間) 【宮城県】:1コマ(1.5時間) 【仙台市】:1コマ(1.5時間)				

テーマ	【第1回・2回】 ・2040年を見据えた社会保障制度の改革 ・地域共生社会に向けた方策 【第3・4回】 ・宮城県と仙台市の社会福祉の現状と課題	
講義内容	【第1回・2回】 日本の社会保障制度は、経済成長により達成した豊かな社会を基盤として、対象者や給付の拡大を進めてきました。ところが、近年、少子高齢化、人口減少、国際化、財政危機、労働環境の変化等を背景として、さまざまな社会保障制度の改革が進行しています。社会保障制度は私たちの生活そのものであり、その意味で制度改革は生活に大きな影響を及ぼします。そこで本講義では、2040年に向けた社会保障制度の改革の内容と、地域共生社会が叫ばれている昨今、生活困窮者自立支援制度を中心とした生活困窮者支援の内容と今後の方向性を共に考えたいと思います。 【第3回】 国の社会福祉制度及び宮城県の社会福祉行政について説明します。 【第4回】 仙台市の社会福祉制度や重点施策について説明します。	
達成目標	【第1回・2回】 ・2040年を見据えた社会保障制度改革の概要を説明できる。 ・地域共生社会と生活困窮者自立支援制度の関係を説明することができる。 ・生活困窮者支援のあり方を提示することができる。 【第3回】 ・これまでの国や県が実施してきた社会福祉行政を概観することで、地域における社会福祉行政の課題や今後の方向性を考えることができる。 【第4回】 ・仙台市の社会福祉制度について理解を深める。自分が住んでいる地域や勤務先の市町村の社会保障制度について、主体的に考えることができる。	
授業計画	授業計画第1回	2040年を見据えた社会保障制度の改革について考察します。
	授業計画第2回	地域共生社会と生活困窮者自立支援制度の関係に留意しつつ、生活困窮者に対する支援の実態について考えます。
	授業計画第3回	これまで国で実施してきた社会福祉制度を概観し、宮城県地域福祉推進計画を中心に地域福祉を取り巻く状況や支援施策の展開について考察します。
	授業計画第4回	仙台市の社会福祉制度についての学びを通して、自分が住んでいる地域や勤務先の市町村の社会保障制度について考察します。
学修に必要な準備	【第1回・2回】 準備は特に必要ありませんが、自分なりに社会保障制度の現状や生活困窮者自立支援制度の目的等を調べておいていただければ、それが予習になると思います。 【第3回】 特にありません。 【第4回】 特にありません。	
テキスト	【第1回・2回】 特にありません。授業の際に資料を配付します。また、パワーポイントのスライドを活用します。 【第3回】 特にありません。事前にパワーポイントを送付しますので、資料として活用願います。 【第4回】 特にありません。当日に資料を配布します。	
履修上の注意	【第1回・2回】 本講座は、地域における支援者（コミュニティソーシャルワーカー）としてのスキルアップ講座ですが、我がこととして学ぶことが理解を深める一助になります。 【第3回】 地元市町村において「市町村地域福祉計画」を策定している場合には、事前に目を通しておくことと県の支援計画との関連性が理解できます。 【第4回】 自身の地元や勤務先の市町村の福祉施策について調べておくことで、よりイメージを持って受講していただけます。	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	○（第3回、第4回のみ） 実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業
備考		

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス				
授業開講年度	2024年度				
科目分類	基礎科目				
必選区分	必修科目				
科目名称	コミュニケーション基礎論とICT活用				
担当者	坂本泰伸【東北学院大学】: 2コマ(3時間)				

テーマ	・コミュニケーションの構造と役割についての理解と活用	
講義内容	コミュニティソーシャルワークは、個人の努力や能力だけで進めることはできません。地域において生活上の課題を抱える家族や個人に対する「個別的支援」は、チームによるアプローチによって統合的に展開や実践する必要があります。特に、人々が暮らす生活環境の整備や住民の組織化等といった「地域支援」の効果的な実現に向けて、コミュニティソーシャルワーカーにはチーム内外の活動における高いコミュニケーション能力が求められています。この講義では、コミュニケーションの構造と役割について基本的な部分から理解を進め、コミュニケーションを円滑に進める技法やICTの活用方法を理解していきます。	
達成目標	・コミュニケーションの構造と役割について基本的な事柄を理解する ・コミュニケーションを円滑に進める技法やICTの活用方法を理解する ・コミュニケーションとコミュニティソーシャルワークの関係性を理解する	
授業計画	授業計画第1回	・コミュニケーションの構造と役割
	授業計画第2回	・コミュニケーションを円滑に進める技法やICTの活用方法
学修に必要な準備	特に必要な準備はありません。	
テキスト	この授業では特定のテキストは使用しません。授業の際に配布する、パワーポイントのスライド資料を利用して授業を進めます。グループワークないしは個人ワークを含めますので、筆記用具を手元に準備する様にしてください。	
履修上の注意	授業テーマごとのそれぞれの授業内容について理解が確かなものとなるように、授業中の積極的な質問の実施や、授業終了後の振り返りを意識するようにしてください。	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業
備 考	授業はプレゼンテーションとハンドアウトを中心にして進めていきます。	

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2024年度			
科目分類		必須理論		
必選区分	必修科目			
科目名称	データによる社会調査・分析(社会疫学)Ⅰ・Ⅱ			
担当者	鈴木寿則【仙台白百合女子大学】:4コマ(6時間)			

テーマ	・社会におけるデータ利活用の考え方 ・保健医療分野における分析手法について		
講義内容	地域における保健、医療、福祉の課題を明確にし、その対策を講じるために必要な情報分析（地域診断）の基礎を学びます。現在、わが国は世界一の長寿社会を達成し、平均寿命および健康寿命が世界一となっています。同時に、高齢化率も28.4%と世界一となっており、2025年までには介護需要が40%以上増加することが推計されています。このような社会状況下で、国は疾病予防、介護予防を重視した施策を展開中であり、その一環として、地域におけるデータ分析は必須のものとなっています。講義では、分析の手法のみならず、現在、求められている分析の背景、必要性を踏まえ、今後の地域における保健、医療、福祉のあり方、連携について考察を行います。 また、地域社会の現状を把握しようとするさいに用いられる「アンケート調査」の方法の基礎について学びます。アンケート調査では、調査対象の設定、調査票作成、集計と分析などを実技や演習を取り入れ、実践的に学習します。		
達成目標	1. 現在のわが国の社会保障（保健、医療を含む）の状況について理解できる。 2. 保健、医療、福祉の連携のために必要なデータ分析の意義について理解できる。 3. データ分析の手法（統計処理）の基礎について理解できる。 4. 健康増進、地域課題の抽出と課題解決に必要な疫学の概要について理解できる。		
授業計画	授業計画第1回	社会保障を取り巻く状況（国民医療費の問題など）について データ分析の必要性について	
	授業計画第2回	地域（集団）を対象とする統計処理の考え方について 現在の日本再興戦略における「データヘルス計画」について	
	授業計画第3回	疫学（地域相関分析、症例対照研究、前向きコホート研究）の概要について 疫学研究結果の評価（スクリーニングなど）について	
	授業計画第4回	地域の情報分析の結果の考察について PDCAサイクルの実践について	
学修に必要な準備	特に必要ありません。		
テキスト	日本疫学会 監修『はじめて学ぶやさしい疫学 ～疫学への招待～ 改訂第3版』		
履修上の注意	本講義は、分析の手法等について解説していきますが、地域分析（地域診断）は、それぞれ目的、背景（地域特性）、考察が様々であり、異なってきます。履修上、受講者の皆様にもとめることとして、講義で学修した内容を、常に自分たちの現場等でどのように活用できるのかを考え、主体的に取り組んで頂きたいと思っております。		
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		○（第3回、4回のみ） 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業
備考	参考文献：保健、医療、福祉にかかる分析、統計処理をはじめて学習する方は、中村好一 著『疫学とは何か データと理論思考で探る病気の原因と予防』（技術評論社、2021）が、入門書としてお勧めです。		

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス				
授業開講年度	2024年度				
科目分類		必須理論			
必選区分	必修科目				
科目名称	データによる社会調査・分析(ライフストーリー聞き取り)Ⅰ・Ⅱ				
担当者	黒坂愛衣【東北学院大学】:4コマ(6時間)				

テーマ	社会調査としてのライフストーリー聞き取り		
講義内容	社会調査としての「ライフストーリー聞き取り」の方法の基礎について学びます。講師が行なってきた調査の経験から、聞き取りやフィールドワークの意義とおもしろさを知るとともに、質問のしかた／語りの意味の分析／調査倫理などについて学習します。グループワークで「ライフストーリー聞き取り」を読み解く時間も設けます。		
達成目標	(1)社会的背景の異なる他者の人生の語りを聞くことのおもしろさに気づくことができる。 (2) 社会調査としての「聞き取り」の方法の基礎について理解する。		
授業計画	授業計画 第1回	「ライフストーリー聞き取り」の魅力	
	授業計画 第2回	「ライフストーリー聞き取り」を読んでみよう(グループワーク)	
	授業計画 第3回	「ライフストーリー聞き取り」の読み解き、聞き取り調査の方法について	
	授業計画 第4回	調査倫理について	
学修に必要な準備	講義のなかで適宜指示します。		
テキスト	講義のなかで適宜指示します。		
履修上の注意			
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	○(第1回、2回のみ) 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業	
備考			

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス				
授業開講年度	2024年度				
科目分類		必須理論			
必選区分	必修科目				
科目名称	地域の施策と資源理解Ⅰ・Ⅱ				
担当者	武藤哲哉【宮城県社会福祉協議会】：2コマ(3時間) 岩淵徳光【仙台市社会福祉協議会】：2コマ(3時間)				

テーマ	・包括的支援体制の理解と地域生活課題の解決方策 ・地域福祉資源の抱える課題と解決方策		
講義内容	【第1回・2回】 第1回・2回は、「地域共生社会の実現(政策・理念)」に向けた包括的支援体制の考え方について、地域医療介護確保法(地域包括ケアシステム)や生活困窮者自立支援制度、社会福祉法の改正の観点から外観します。 また、地域共生社会の実現に深く関わりのある民生委員・児童委員の活動や生活困窮者自立支援制度(自立相談支援機関の活動)、行政の重層的支援体制整備事業と社会福祉協議会の活動の連携の意義について考察していきます。 【第3回・4回】 仙台市社会福祉協議会が進めてきた地域福祉活動は、平成8年度から、ほぼ中学校区単位で組織されている地区社会福祉協議会が行う小地域福祉ネットワーク活動を基盤としている。現在、市内104全ての地区社会福祉協議会で行われており、住民主体による自主的な活動として根付いている。その活動内容は、地域性や住民参加の度合いにもよるが、見守り、サロン、日常生活支援などを展開してきており、その具体的な取り組みと課題について考察していきます。 また、住民の心配ごと、困りごと、願い等を起点とした地域資源の把握と活用についても学びます。		
達成目標	第1回・2回は、包括的支援体制整備の必要性とこれを支える制度等について理解すること。また、住民や関係機関等の専門職の連携の在り方と実践方法について、自分なりの解を見出すこと。 第3回は、小地域福祉ネットワーク活動の現在の活動を明らかにし、活動から見えてくる課題を考察する。第4回は、課題解決に必要な地域資源とは何かを理解し、その把握手法や活用方法、資源開発の視点等を考え理解する。		
授業計画	授業計画第1回	包括的な支援体制の整備に係る関係制度等について	
	授業計画第2回	地域生活課題の解決のための連携について	
	授業計画第3回	小地域福祉ネットワーク活動の実際	
	授業計画第4回	地域資源とは何か、その活用方法と開発の視点等について	
学修に必要な準備	【第1回・2回の準備】 受講者がお住まいの地域の地域福祉計画(社会福祉法第107条に規定する市町村地域福祉計画)に目を通しておくことを期待します。 【第3回・4回の準備】 仙台市社会福祉協議会のHPから、地域福祉活動計画を検索し、その中に記載している小地域ネットワーク活動について確認しておいてください。		
テキスト	【第1回・2回で使用】 特に用いませぬ。授業の際にパワーポイント資料を配布します。 【第3回・4回】 当日持参します。		
履修上の注意			
授業運営に関する方針	○企業等と連携して行う授業	双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	○実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業	
備考			

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス				
授業開講年度	2024年度				
科目分類		必須理論			
必選区分	必修科目				
科目名称	地域社会とCSR（企業の社会的責任）				
担当者	矢口義教【東北学院大学】：2コマ（3時間）				

テーマ	・ 企業の社会的責任の正確な理解と現代的潮流 ・ 社会貢献を視点とする企業と地域社会との関係性	
講義内容	本講義は、地域社会の持続可能な発展における企業の役割を考察することにある。そのために、まずCSR（企業の社会的責任）が、どのような背景で出現しているのかを見た後に、CSRの概念を検討する。これによって、CSRの特徴やその意味を理解する。また、近年のCSRの特徴についても解説することで、そこには「戦略性」が存在しており、企業の競争優位にも関係することを示す。 このような前提を踏まえて、企業と社会との関係に考察を進める。ここでは、日本企業の社会貢献の全体像を示し、近年のトレンド、そして大企業と中小企業との違いにも言及していく。そして、最後に東日本大震災時および復旧・復興期における企業の役割をCSRの観点から考察し、企業の地域社会におけるCSRの意味をより掘り下げていく。	
達成目標	・ 社会貢献活動も含めたCSRの正しい理解をできるようになる ・ 企業と地域社会（NPOや福祉団体）の関係を理解できるようになる ・ 企業との連携について、新たな発見やアイデアを考える基礎を得る	
授業計画	授業計画 第1回	CSRとは（CSRの背景、基本的概念と構成要素、現代的潮流）
	授業計画 第2回	企業と地域社会（企業の社会貢献活動、東日本大震災やコロナ禍における企業の社会性）
学修に必要な準備	準備は特に必要ありません。	
テキスト	テキストは用いません。授業の際に配布するパワーポイントのハンドアウトをテキストとして使用します。	
履修上の注意	授業の内容を深める努力をしてください。実際には、新聞記事やニュースなどで地域企業の動向を見て、当該企業の性質・特徴と取り組める役割などをつねに考えられるようになってください。	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業
備考		

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス				
授業開講年度	2024年度				
科目分類		必須理論			
必選区分	必修科目				
科目名称	組織運営				
担当者	和田正春【東北学院大学】:2コマ(3時間)				

テーマ	・リーダーシップと組織のマネジメント ・人的資源マネジメント ・地域住民の組織化		
講義内容	コミュニティソーシャルワークにおいては、地域の資源を開発するとともに、さまざまな人や組織をつなぐ役割が求められます。地域住民組織のマネジメントに必要な組織運営に関する考え方を知り、その問題点を分析して解決するための力が必要です。こうした観点から、リーダーシップとマネジメント、人的資源マネジメント、組織のマネジメント、地域住民の組織化についてグループワークを取り入れながら学びます。		
達成目標	実例に向き合いながら体系的に理論を学習し、状況に応じたアプローチを実践できる。 また、マネジメントの考え方と基本的な手法を理解し、地域での活動において、何らかの成果を生み出すためのリーダーシップとマネジメント力をバランスよく発揮するための方法を理解する。		
授業計画	授業計画 第1回	リーダーシップについて 行動科学的視点からリーダーシップについて概説します。その上でCSWの活動で想定される状況下でのリーダーシップについて検討し、受講者と共に実際のケースに基づいて議論します。リーダーシップを、目的に合致して自律的なチームを構成するための技法と理解し、幅広く検討していきます。	
	授業計画 第2回	人材を疲弊させず、生産性を高めていくための組織作りのあり方について、組織課題の段階別、チームの成熟度別に解説し、実際に組織化を進める上での課題について検討します。実際の取組の中で生じる課題を念頭に、全員で議論していきます。	
学修に必要な準備	特段の準備は必要ないが、各種文献や新聞等を通してコミュニティと組織の違いについての自分なりの理解をしているのが望ましいです。		
テキスト	オリジナルの資料を用いるのでテキストは使用しません。		
履修上の注意			
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業
備考			

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2024年度			
科目分類		必須理論		
必選区分	必修科目			
科目名称	地域福祉活動計画Ⅰ・Ⅱ			
担当者	岩渕徳光【仙台市社会福祉協議会】:1コマ(1.5時間) 佐々利春【富谷市社会福祉協議会】:1コマ(1.5時間) 増子 正【東北学院大学】:2コマ(3時間)			

テーマ	・実例に基づく地域福祉活動(支援)計画の理解 ・地域福祉活動計画策定の実際とその課題 ・地域福祉活動計画の評価		
講義内容	社会福祉協議会が策定をする地域福祉活動(支援)計画は、改正社会福祉法の成立(2017年)により地方自治体において福祉分野の「上位計画」として位置づけ策定を努力義務化された地域福祉計画と両輪をなすものとして位置付けられています。この間の経緯や背景を学ぶとともに、事例として仙台市社会福祉協議会と富谷市社会福祉協議会が策定をした活動(支援)計画の場合について、より望ましい計画策定に向けた課題を演習形式で検討します。また、策定後に行政や住民と協働体制を敷いた富谷市社協の、策定の過程や効果について説明します。 第1回については、実際の市町村における活動計画等の策定プロセスを学び、どのように課題解決に反映させていくのかなどについて考え、自らが居住する(または活動で関わっている)市町村においては策定のプロセスに市民がどのように参画するのが望ましいのか考えます。 評価は計画を遂行するために欠くことのできない重要なプロセスです。計画の修正・見直しは評価に基づいて行われなければならないため、第3・4回では、評価の概念・手法・活用方法と事例を紹介し、具体的な地域福祉活動計画評価への活用の仕方を考えていきます。		
達成目標	地域福祉計画の必要性と宮城県の地域福祉支援計画及び県社協の35市町村社協を支援する推進計画の内容について理解する。一つの小さい自治体社協の取組、工夫、特徴を学ぶとともに、その策定による効果を理解する。 評価の手法が、地域福祉活動計画の修正・見直しに活用できるようになる。		
授業計画	授業計画 第1回	市町村における行政計画と活動計画の実際 仙台市における活動計画策定のプロセス 仙台市第5次地域福祉活動計画について	
	授業計画 第2回	市町村における行政計画と活動計画の実際(富谷市社会福祉協議会を例に)	
	授業計画 第3回	評価の意義 地域福祉活動計画と評価	
	授業計画 第4回	地域福祉活動計画の評価方法の検討	
学修に必要な準備	第1回については、本会HPにある地域福祉活動計画に目を通しておいください。 第2回については、特にありません。 第3回、第4回までに、行政機関が行なっている政策評価についてHPで目を通しておいください。		
テキスト	第1回、第2回目の事例については、講師が当日持参します。 第3・4回については、講義の前までに配布するので、当日持参ください。		
履修上の注意			
授業運営に関する方針	○(第1回、2回のみ) 企業等と連携して行う授業		双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	○(第1回、2回のみ) 実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業
備 考			

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス				
授業開講年度	2024年度				
科目分類		必須理論			
必選区分	必修科目				
科目名称	地域アセスメント				
担当者	森明人【東北福祉大学】:2コマ(3時間)				

テーマ	地域共生社会政策に基づく市町村の地域福祉計画や社会福祉協議会の地域福祉活動計画を策定する際に基本とする日常生活圏域をベースにした地域アセスメントについて学ぶ。	
講義内容	地域アセスメントについて、対象、主体、方法について基本理解を図る。 地域生活課題を分析する基本視点と枠組みについて学ぶ。	
達成目標	地域福祉計画・地域福祉活動計画を策定するための課題分析ができるようになる。	
授業計画	授業計画 第1回	地域アセスメントについて、対象、主体、方法、課題分析について基本理解を図る。
	授業計画 第2回	ワークショップ形式による地域アセスメントを実践してみる。
学修に必要な準備	地域福祉計画・地域福祉活動計画を一読してくること	
テキスト	資料を配布します。	
履修上の注意	特にありません。	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業
備 考		

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス				
授業開講年度	2024年度				
科目分類			実践技法		
必選区分				選択科目	
科目名称	地域福祉とファンドレイジングⅠ・Ⅱ〔遠隔授業〕				
担当者	久津摩和弘【一般社団法人日本地域福祉ファンドレイジングネットワークCOMMNET】:4コマ(6時間)				

テーマ	・地域福祉活動と財源の関係性理解 ・ファンドレイジング基礎知識 ・支援者を集めることができる社会的インパクト志向の地域福祉活動の作り方 ・共感が集まる福祉活動における広報 ・ファンドレイジングを行う際に遵守すべき倫理		
講義内容	これまで日本の地域福祉においては、行政からの公的財源や助成団体からの助成金などを主な財源としたサービス提供、団体の経営が行われてきた。しかし、昨今、地方自治体の財政状況の厳しさ等もあり、公的財源による新たなニーズ対応が困難となるなど、十分な地域福祉活動が行えないことが増えている現状がある。また、日本の地域福祉活動の財源の一翼を担ってきた共同募金においても、寄付金が減少し、助成額も縮小せざるを得ない地域も多くある状況である。このような中、地域福祉活動を行う団体においては、これらの財源がなくなったとしても、継続的かつ安定的に地域のニーズへの支援活動を行う使命があるものの、財源対策を行っている団体はごくわずかであるのが現状である。 一方、地域福祉においては、例えば、貧困世帯の子どもの食糧、生活必需品、学用品の支援、地域におけるゴミ屋敷の片付けなどの個人的なニーズに関する支援活動、数日から数ヶ月以内の事業化が求められる即応が必要なニーズへの対応など、公的財源や助成金等では対応が困難なニーズにも支援を行っていく必要があるが、このようなニーズには寄付金など、自由度の高い民間財源を使わなければ対応していくことができない状況もある。しかし、この点に関しても、十分な財源を確保できている団体はごく一部であるのが現状である。 そこで、地域福祉活動を行うCSWがお金がないで終わらせない、継続的で安定的な支援活動を実現することができるようにするため、地域福祉におけるファンドレイジングの位置付け、支援が集まる成果志向の事業の作り方、共感が集まる広報、ファンドレイジングを行う際に遵守すべき倫理など、ファンドレイジングに関する体系的な基礎知識を学びます。		
達成目標	公的財源の限界がある中において、コミュニティソーシャルワーカーが「お金がない」で諦めない福祉を実践し、多様な財源を確保し、様々なニーズに対応できるようにするための基盤となる理念やファンドレイジングの専門的な知識、倫理等を理解する。		
授業計画	授業計画第1回	CSWの支援活動とファンドレイジングの関係性	
	授業計画第2回	地域にファンを増やすファンドレイジング基礎知識	
	授業計画第3回	ファンドレイジングを成功させる社会的インパクト志向の地域福祉活動の作り方	
	授業計画第4回	福祉活動におけるファンドレイジングの広報と遵守すべき倫理	
学修に必要な準備	特にありません。		
テキスト	地域福祉とファンドレイジング(2018)中央法規出版 パワーポイントの配布資料		
履修上の注意			
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	○実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業
備考			

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス				
授業開講年度	2024年度				
科目分類			実践技法		
必選区分				選択科目	
科目名称	協働の手法Ⅰ・Ⅱ				
担当者	遠藤智栄【地域社会デザイン・ラボ】:4コマ(6時間)				

テーマ	・協働の歴史 ・協働の事例 ・課題と今後について	
講義内容	多様な主体が互いに連携し、単独ではなし得なかった課題解決を実現する「協働」の手法は、日常のまちづくり活動のみならず、大規模災害時の復旧、復興にも活用されています。本講義では、協働についての歴史や事例、そして現在の課題と今後の可能性について演習形式を取り入れながら学びます。	
達成目標	地域や福祉、公共を考える上で不可欠な「協働」の概念を理解する。そして、協働テーマの発見から協働取り組みの構築、協働での成果の確認、そして評価、などの全体プロセスを理解する。	
授業計画	授業計画第1回	協働の歴史と意味、そのプロセス～社会や公共における重要性を考える～
	授業計画第2回	協働事例とその分析～行政側の変化と仕組み化～
	授業計画第3回	協働事例とその分析～民間側（非営利組織、営利組織など）の変化と仕組み化～
	授業計画第4回	協働コーディネーターとしてのコミュニティソーシャルワーカーの動きと役割
学修に必要な準備	準備は特に必要ありません	
テキスト	使用する資料は授業の際に配布します。	
履修上の注意		
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	○実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業
備考	授業はパワポを使用して行います。	

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス				
授業開講年度	2024年度				
科目分類			実践技法		
必選区分				選択科目	
科目名称	ファシリテーションの実際とワークショップ運営				
担当者	渡邊一馬【一般社団法人ワカツク】:2コマ(3時間)				

テーマ	・ファシリテーションの基礎と実践 ・ワークショップの設計と運営		
講義内容	協働は、参加する自治体職員、公共団体職員、NPO職員、市民等の合意形成の質を如何に高くするか、メンバーの納得度をどのようにして高めるかなど、ファシリテーションの機能が成功の鍵であり、この機能は日常でのコミュニケーション全般において必要です。そして、協働の場で用いられるワークショップは、主体的な学びや創造、問題解決やトレーニングの手法です。この講義では、ファシリテーションの基本的技術とワークショップ運営をより充実させるための手法を、参加者と共にワークにより学びます。		
達成目標	ファシリテーションの考え方を理解する。また、ワークショップを自ら運営するための基本的なスキルを理解する。そして、具体的事例でのワークショップ運営を構想できる。		
授業計画	授業計画 第1回	ワークショップの設計と運営(座学とワークショップ) ・場づくりの意味	
	授業計画 第2回	ワークショップ運営演習 ・ワークショップ運営を構想する～参加者が取り組みたい地域課題をもとに～	
学修に必要な準備	授業で使いますので、下記を事前にご準備下さい。 自分の身の周りで取り組んでいる、もしくは取り組みたい「地域課題」と、その課題に関係している「登場人物10人以上」を出来るだけ具体的に書き出してきて下さい。		
テキスト	テキスト:テキストは特に使用しません。使用する資料は授業の際に配布します。		
履修上の注意			
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	○実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業
備考			

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス				
授業開講年度	2024年度				
科目分類			実践技法		
必選区分				選択科目	
科目名称	健康格差論				
担当者	鈴木寿則【仙台白百合女子大学】:2コマ(3時間)				

テーマ	・社会環境における健康づくりの理解 ・健康に影響を及ぼす社会経済的要因についての考察		
講義内容	これまで保健医療分野で取り扱ってきた「健康」について、社会科学の側面から考察します。社会科学における「健康」は、医療保険制度や介護保険制度などの制度論について考察されるものでした。また、「健康」は、その維持や増進のため、保健医療、とりわけ臨床医学が主となり取り扱われてきましたが、この十数年来、予防医学の考えが重視されるようになり、社会医学としての公衆衛生学が、分野を問わず幅広く議論され、実践されてきております。 そこで、本来は誰もが平等に享受すべき「健康」について、性別、家族、学歴、所得、居住地などの社会環境要因が影響を与えていることが明らかにされつつあります。これらの格差がどのように健康と関連し、健康格差を生じさせるのか、その基礎的な考えを理解し、グループワークなどを通じて、自分たちの社会生活からどのような因果関係で健康格差が生じうるのかを検討し、その課題解決に向けた実践的学習を展開していきます。		
達成目標	1. 社会環境と健康の関係について理解できる。 2. 健康に関連する社会環境の要因について考察することができる。 3. 健康格差について理解し、その解決方法について考察することができる。		
授業計画	授業計画 第1回	健康格差とはなにか これまでの健康格差研究について	
	授業計画 第2回	社会科学モデルからの健康の因果関係について 社会環境要因について	
学修に必要な準備	CSWスキルアッププログラムの授業である「社会疫学Ⅰ」および「社会疫学Ⅱ」の学修を踏まえた上で授業を行います。授業前には当該科目を見直しておくことが望ましい。		
テキスト	授業で使用するプリント等は、授業中に配布致します。		
履修上の注意	本講義は、健康格差について解説していきますが、社会環境と健康の関連性は、それぞれの背景、考察が様々であり、異なってきます。履修上、受講者の皆様にもとめることとして、講義で学修した内容を、常に自分たちの現場等でどのように活用できるのかを考え、主体的に取り組んで頂きたいと思っております。		
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業
備考	特になし。		

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス				
授業開講年度	2024年度				
科目分類			実践技法		
必選区分				選択科目	
科目名称	傾聴の技法				
担当者	阿部重樹【学校法人東北学院】:2コマ(3時間)				

テーマ	・相談力向上(聴き上手になる)技法 ・ワーカーの持つ価値に係る自己覚知の意義	
講義内容	コミュニティソーシャルワークにおいても、ワーカーは例えばアセスメントや援助(支援)計画策定にあたっては、構築された信頼関係のもとに得られるより多くの情報の収集が必要となってきます。こうした側面において求められる傾聴(の技法)とワーカーのもつ価値に係る自己覚知の意義について、ワークを取り入れながら学びます。	
達成目標	社会福祉分野での援助(支援)におけるラポール(信頼関係)構築の意義について理解する。併せてラポールの構築のための有力な要素としての傾聴のもつ意味について理解する。傾聴のための具体的な手法について知る。これらをさらに自分のものとして修得する。	
授業計画	授業計画第1回	社会福祉分野の援助(支援)におけるラポール(信頼関係)の構築の意義を学ぶ。コミュニケーションにおいてポイントとなる「共感的理解と受容」に傾聴(アクティブリスニング)の果たす役割、バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションについて知る。
	授業計画第2回	メラビアンの法則の教えるところを知る。傾聴のためのCSOLERとは何か。パイスティックの7つの原則を学ぶ。 いくつかの具体的な傾聴の技法について理解をし、ワーク(実践)を通して傾聴の技法がラポールの構築にとってもつ意味を学ぶ。
学修に必要な準備	特にありません。	
テキスト	特にありませんが、当日授業で用いる資料(プリント)を配布します。	
履修上の注意		
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業
備考		

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス				
授業開講年度	2024年度				
科目分類			実践技法		
必選区分				選択科目	
科目名称	コミュニティビジネス				
担当者	吉澤武志【(一社)筆甫地区振興連絡協議会】:2コマ(3時間)				

テーマ	・コミュニティビジネスの基本的な理解と演習	
講義内容	地域が抱える様々な課題を地域資源を活かしながらビジネス的な手法によって解決しようとするコミュニティビジネス。本講義では、丸森町筆甫地区で取り組まれているコミュニティビジネスを通して、コミュニティビジネスの考え方を学びます。また実際にそれぞれが置かれているコミュニティにおける事業を考えてみることで地域課題をコミュニティビジネスの力で解決していく方法を参加者同士のワークにより学びます。	
達成目標	・コミュニティビジネスの基本的な考え方を理解をする。 ・地域課題をビジネス的な手法によって解決する視点を養う。	
授業計画	授業計画 第1回	コミュニティビジネスの事例とその考え方について ・丸森町筆甫地区の実践事例から学ぶ
	授業計画 第2回	コミュニティビジネス演習 ・コミュニティにおける事業の構想を検討する
学修に必要な準備	受講者の方のかかわるコミュニティの地域課題とその解決方法をイメージして演習に臨んでください。	
テキスト	テキストは特に使用しません。使用する資料は授業の際に配布します。	
履修上の注意		
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	○実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業
備 考		

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス				
授業開講年度	2024年度				
科目分類			実践技法		
必選区分			選択科目		
科目名称	臨床宗教学(聴くことのカーカフェでもんくの事例から)				
担当者	金田 諦應【通大寺住職】:2コマ(3時間)				

テーマ	傾聴のチカラ コミュニティのチカラ	
講義内容	「傾聴」は他の人生に介入していく場合の基本的スキルである。 東日本大震災被災地で活動し続けている「傾聴移動喫茶カフェデモンク」の活動事例を通して傾聴とはなにか、寄り添う事とは何かを学んでいく。また、避難所・仮設住宅・復興住宅での活動事例を通して、コミュニティのあり方を共に考えていきたい。	
達成目標	傾聴とは相手との対話だけでなく、自分と厳しく向き合う作業である事を理解する。震災と震災後の経験を社会全般を問い直す視点とする事。	
授業計画	授業計画第1回	東日本大震災と傾聴移動喫茶「カフェデモンク」
	授業計画第2回	カフェデモンクの活動から学んだ「傾聴のチカラ」
学修に必要な準備	特になし	
テキスト	パワーポイントから起こした資料と活動に関連した資料を配布します。	
履修上の注意	震災を過去の出来事にせず、常に「今」の事として捉え、日常に活かして下さい。	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	○実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業
備 考		

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス				
授業開講年度	2024年度				
科目分類			実践技法		
必選区分				選択科目	
科目名称	対人コミュニケーションと心理的援助				
担当者	臼倉瞳【東北学院大学】:2コマ(3時間)				

テーマ	・対人コミュニケーションにかかわる知識・技術を学ぶ ・災害時における心理的援助に関する知識・技術を学ぶ	
講義内容	CSWとしての役割を果たすにあたり、コミュニケーションスキルは必要不可欠といえます。本授業では、心理学領域における理論・学術的知見を踏まえながらコミュニケーションや心理的援助に関わる知識・技術を学びます。また、平時だけでなく災害時における心理的援助のあり方や、支援者自身のセルフケアについても取りあげます。 なお、講師は、臨床心理士・公認心理師の有資格者であり、被災者支援・支援者支援に関する調査研究や、メンタルヘルスに関する普及啓発活動に従事してきた経験を活かして講義・演習を行う予定です。	
達成目標	・心理的援助に際して効果的なコミュニケーションのあり方を理解し、実践することができる ・災害時の被災者のメンタルヘルスへの影響や支援者として留意すべき事項を理解することができる	
授業計画	授業計画第1回	心理的援助におけるコミュニケーション技法（講義・演習）
	授業計画第2回	災害時における心理的援助のあり方（講義・演習）
学修に必要な準備	特にありません。	
テキスト	講義当日に資料を配布します。	
履修上の注意	ペアワークや講師から受講者への発問時には積極的・協力的な参加を求めます。	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業
備考		

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス				
授業開講年度	2024年度				
科目分類			実践技法		
必選区分				選択科目	
科目名称	発達障がい者支援				
担当者	皆川美雪【宮城学院女子大学学生相談室】:2コマ				

テーマ	・発達障害の理解 ・社会的取り組みの現状と課題 ・地域社会と社会的包摂	
講義内容	発達障害者支援法により、それまで支援が届きにくかった発達障害に関して、早期発見し、自立及び社会参加のための生活全般にわたる支援の必要性が指摘され、個人としての尊厳にふさわしい社会生活を営むことができるよう切れ目のない支援が行われることが明文化されている。しかしながら、発達障害は、生来性あるいは生後間もなく生じる脳機能障害であるが、環境や個人によって困り感が異なり多様な様態を示す障害である。そのため障害自体が理解されにくく、支援に結びにくい側面がある。 発達障害の理解をはじめとして、その社会的な取り組みや課題等の現状について学び、発達障害者を地域社会が包摂していくために、いま求められていることについて受講生とともに演習形式で学びます。	
達成目標	発達障害についての理解を深め、関連諸法の動向の中で発達支援の諸課題を理解する。また、地域資源活用の観点から、俯瞰的視点でネットワーク図を描くことができるとともに、より良い支援が模索できる。	
授業計画	授業計画 第1回	発達障害の概念-大人の発達障害を中心に- 発達障害の二次障害への対応について
	授業計画 第2回	事例を通して、地域資源を生かした支援を探る
学修に必要な準備	準備は特に必要ありません。	
テキスト	特に用いません。授業の際にプリントして配布する講義資料とパワーポイントのスライドを利用して、授業を行います。	
履修上の注意	授業テーマごとのそれぞれの授業内容について、理解が確かなものとなるように、授業終了後の復習に取り組むようにして下さい。	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業
備 考	参考文献 授業受講の際に、第1回～第2回の授業テーマごとにそれぞれの参考文献を紹介致します。	

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス				
授業開講年度	2024年度				
科目分類			実践技法		
必選区分			選択科目		
科目名称	ソーシャルワーク・スーパービジョン				
担当者	塩村公子【佐久大学】：2コマ(3時間)				

テーマ	ソーシャルワーク・スーパービジョン	
講義内容	ソーシャルワークにおける人材育成・サービスの質向上・ソーシャルワーカーへのサポートを統合的に実践するスーパービジョンについて、その基本の理解を目指します。	
達成目標	スーパービジョンとは何かについて理解できる。これまでの実践とスーパービジョンの考え方を結びつけて考えることができる。今後の実践にスーパービジョンの考え方を参考にすることができる。	
授業計画	授業計画 第1回	基礎編：スーパービジョンの定義・機能・構成要素・スーパービジョンの種類
	授業計画 第2回	実践編：ソーシャルワーク・スーパービジョンの視野・各機能の実際・スーパービジョンに必要な知識と技術
学修に必要な準備	受講生各自がどのように自身の専門性を身につけてきたか思い出してきてください。	
テキスト	テキストはありません。当日はパワーポイントや配布資料で授業を進めます。 参考文献：日本ソーシャルワーク教育学校連盟監修（2023）『実践ソーシャルワーク・スーパービジョン』中央法規出版、日本ソーシャルワーク教育学校連盟監修（2015）『ソーシャルワーク・スーパービジョン論』中央法規出版、など。授業内でその他についても紹介します。	
履修上の注意	受講生間の話し合いを含みます。お互いの協力が必要です。	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業
備考		

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス				
授業開講年度	2024年度				
科目分類			実践技法		
必選区分			選択科目		
科目名称	認知症の理解と地域支援				
担当者	石原哲郎【脳と心の石原クリニック】:2コマ(3時間)				

テーマ	超高齢化社会における持続可能な地域づくり		
講義内容	昨今メディアでも話題となっている認知症。85歳以上の半数以上が認知症と呼ばれる状態で生活しています。あなたの身近な人にも認知症と診断されておられる方、認知機能低下のある方がいらっしゃるかもしれません。何があったら認知症になっても地域で生活し続けられるのでしょうか？ コミュニティソーシャルワーカーの人には、ぜひ知っていただきたい内容が満載です。 まず認知症専門医が認知症の基礎から訪問診療を通してみた実際の生活を紹介します。 次にLiving Well With Dementia(認知症とともに生きる)をキーワードに、世界の認知症の当事者の生活について伝えます。 講義はワークショップ形式です。最先端ののプレスト、リベレイティングストラクチャーを使った楽しいワークショップです。 同じ境遇にありながらも、より良い生活を送っている片隅の成功者(Positive Deviance)の見つけ方についても学べます。		
達成目標	認知症という状態や認知機能低下をきたす疾患を理解できるようになる。 パーソン・センタード・ケアについて理解できるようになる。 認知症の診断後支援の重要性について理解できる。 認知症の人も住みやすい地域を目指すことに自信が持てる。 Positive Devianceの考え方を習得できる。 楽しいワークショップ開催方法を理解できる。		
授業計画	授業計画 第1回	認知症、認知症の診断後支援についての講義とワークショップ	
	授業計画 第2回	認知症の人が地域で生活し続けるためのPositive Deviance体験ワークショップ	
学修に必要な準備	特にありません。認知症の人とのかかわりについて少しメモしていただけたら幸いです。		
テキスト	参考文献: 石原哲郎「図解でわかる認知症の知識と制度・サービス」(中央法規)		
履修上の注意	特にありません。		
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	○実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業
備考			

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス				
授業開講年度	2024年度				
科目分類			実践技法		
必選区分				選択科目	
科目名称	非営利とは何か——生活と生業の支援から考えるボランティアの臨界				
担当者	齊藤康則【東北学院大学】:2コマ(3時間)				

テーマ	・(災害)ボランティア・NPOの歴史的展開 ・生活支援と生業(農業)支援 ・ボランティア、非営利とは何か		
講義内容	東日本大震災以降、災害ボランティアセンターを経由した被災者の生活支援にくわえて、農協(JA)が独自にボランティアセンターを設立し、ボランティアの手を借りるかたちで、被災した農地の復旧を支援するようになりました。それは、社協型災害ボラセンでは営利につながるものとして取り扱われず、もっぱら公的な災害復旧事業か、農業者の自助に委ねられてきた領域でした。 しかし、無償のボランティアが農業者の経済活動を支援する、この新たな取り組みについて、さまざまな議論が交わされてきたのも事実です。災害という緊急事態であるゆえ、被災地域の復旧・復興を優先すべしという「非常時規範」を、いつまで、どこまで適用すれば良いかが問われてくるからです。 この講義では、これまで担当者が調査研究してきた農業ボランティアの事例を紹介しながら、ボランティアとは何か、そして非営利とは何かについて再検討したいと思います。		
達成目標	①これまでの(災害)ボランティア・NPOの取り組みについて理解する ②東日本大震災以降の農業ボランティアの取り組みについて知る ③今後のボランティア、非営利のあり方について考えられるようになる		
授業計画	授業計画第1回	講義① (災害)ボランティア・NPOの展開とその課題	
	授業計画第2回	講義② 被災農地の復旧に従事する、農業ボランティアの展開	
学修に必要な準備	テキストは事前に配布しますので、必ず目を通しておいください。		
テキスト	①齊藤康則, 2018, 「なぜ災害ボランティアは農業支援に向かったのか?——東日本大震災・熊本地震から考える生業の復興」『震災学』12: 200-229. ②齊藤康則, 2020, 「西日本豪雨と「みかんボランティア」——宇和島市吉田町における柑橘農業の復旧誌」『震災学』14: 130-149. ③齊藤康則, 2020, 「生業復興と販路形成——非営利セクターは、なぜそしてどのように、被災した生産者を支援したのか」吉原直樹他編『東日本大震災とく自立・支援』の生活記録』六花出版, 580-610.		
履修上の注意	あらかじめテキストを配布しますので、事前に目を通しておいください。また、講義終了後のレポート(ミニツツペーパー)では、受講者の方のオリジナルな議論を求めます。		
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業
備考			

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス				
授業開講年度	2024年度				
科目分類				特論演習	
必選区分				選択科目	
科目名称	特論演習：高齢者支援と地域社会				
担当者	西澤英之【宮城県社会福祉士会】：2コマ(3時間)				

テーマ	・地域包括支援センターの活動の実際 ・地域包括ケアシステム構築に向けての課題	
講義内容	2025年度を目途に、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの深化・推進を目指した介護保険制度改正が行われ、高齢者が住み慣れた地域や自宅で安心して暮らし続けることができるように、地域における包括的な支援体制構築が求められています。特に、日常生活圏域ごとに設置された「地域包括支援センター」に対する社会的な期待は高く、地域の中核的な役割を担うことが期待されています。この講義では、地域包括支援センターの役割や課題について学び、地域包括ケアシステムの構築に向けて共に考えていきます。	
達成目標	コミュニティソーシャルワーカーとして、地域包括ケアシステム構築に向けた課題を的確に捉えることができる。また、ライフステージを踏まえた高齢者の豊かな地域生活を支援することについて様々な角度から考えることができる。さらに、住まい・医療・介護・予防・生活支援にかかわる関係機関のほか、障害者・子ども等、高齢者以外の分野を超えた連携を視野に入れた包括的支援体制のあり方と共に、多様な地域住民同士による支え合いなど、支援が必要となった高齢者を重層的に支える取り組みについても理解を深める事ができる。	
授業計画	講義	地域包括支援センターの役割と地域社会における支え合い構築について
	演習	【演習1】高齢者を取り巻く生活課題の共有と支援のあり方を考える 【演習2】地域社会における支え合いの構築を考える
学修に必要な準備	高齢者を支える地域の社会資源をできるだけ多く探して演習に臨んでください。	
テキスト	テキストは特に用いません。 講義・演習で必要な資料はその都度配布します。	
履修上の注意	演習では受講者からの積極的な発言を求めます。日頃から自分が住む地域や勤務する地域の状況を多角的に捉えておいてください。	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	○実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業
備 考		

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス				
授業開講年度	2024年度				
科目分類				特論演習	
必選区分				選択科目	
科目名称	特論演習:生活困窮者支援と地域社会				
担当者	後藤美枝【一般社団法人パーソナルサポートセンター】:2コマ(3時間)				

テーマ	生活困窮者自立支援制度の実際と課題	
講義内容	生活困窮者支援の実践から見てきたコミュニティソーシャルワーカーが何をしなければならないかを考えます。また実践からみえてきた課題を受講生とともに演習形式で検討します。	
達成目標	生活困窮者自立支援制度の現状とこれからの地域づくりについてを学ぶ。	
授業計画	授業計画第1回	生活困窮者自立支援制度について
	授業計画第2回	居住支援について（PSCにおける取り組みの実践から）
学修に必要な準備	準備は特に必要ありません。	
テキスト	特に用いません。授業の際にプリントして配布する講義資料とパワーポイントのスライドを利用して、授業を行います。	
履修上の注意	最終日のペーパーテストで70点以上獲得できる様に復習をしてください。	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	○実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業
備考	参考文献は特にありません。	

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス				
授業開講年度	2024年度				
科目分類				特論演習	
必選区分				選択科目	
科目名称	特論演習:子育て支援と地域社会				
担当者	小岩孝子【特定非営利活動法人 FOR YOU にこにこの家】:2コマ(3時間)				

テーマ	子どもたちが明日に希望を持てる地域社会の子育ち・子育て応援		
講義内容	【課題の把握】ひとり親世帯や心身を患っている親世帯、障害児を持つ世帯、核家族、不登校の子どもを持つ家庭の増加に伴う社会的格差及び貧困から来る家庭機能の低下が子どもの心身の不健康と発達の遅れを引き起こしている現実やコロナ禍において生じた様々な制限により、子どもの心の状態に大きな影響を与えていること、子育てに困難をきたしている家庭も多くなっていること、状況把握 【課題への支援】切れ目のない子育て支援と細やかな家庭教育、及び学校教育・家庭教育・社会教育の3つをつないでいく「子ども・子育て応援社会」の実現のためにすべきこと 社会的な要請に取り組んできた事例とそこから見えてくる課題について演習形式で学びます。		
達成目標	新しい地域福祉の時代における子ども・子育て支援のあり方や望ましい子どもの心の育ちと環境を実現するために、「子どもは社会の子ども」として、「地域 みんなで子育て」の理念を理解する。子どもたちの未来のために、地域一体となった子ども・子育て応援社会を目指し、地域社会の中でコミュニティソーシャルワーカーが果たす機能と意義について理解する。		
授業計画	授業計画第1回	切れ目のない子育て支援と細やかな家庭教育の必要性の実例と講義	
	授業計画第2回	地域社会と子ども・子育て社会の課題・演習 「子どもの未来を応援する社会」対策の事例 グループワーク コミュニティソーシャルワーカーの子ども・子育て応援演習	
学修に必要な準備	準備は特に必要ありません。		
テキスト	特に用いません。授業の際にプリントして配布する講義資料とパワーポイントのスライドを利用して、授業を行います。		
履修上の注意	授業テーマごとのそれぞれの授業内容について、理解が確かなものとなるように、授業終了後の復習に取り組み、実践をしてください。		
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	○実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業
備考			

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス				
授業開講年度	2024年度				
科目分類				特論演習	
必選区分				選択科目	
科目名称	特論演習:障がい者支援と地域社会				
担当者	伊藤清市【社会福祉法人 宮城県障がい者福祉協会】:2コマ(3時間)				

テーマ	・障害者を取り巻く地域社会の現状と課題 ・課題解決に向けCSWが果たす役割と目指すべき方向	
講義内容	地域共生社会の実現に向けて、従来の「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えた取り組みが期待される中で、障がい者支援においてもその重要性が高まっています。 一方で、一昨年日本政府に対し審査が行われた国連の障害者権利条約では、日本の障害者施策に対し数々の勧告がなされ、その解決が喫緊の課題とされています。 本稿では、CSWに求められる障がい者支援の在り方を、身体障害当事者である講師のライフヒストリーを交えて考察します。	
達成目標	障がい者支援を含む地域共生社会の実現に向けてCSWに求められる役割を理解するとともに、レポートや演習にて意見を表明できるようにする。	
授業計画	授業計画第1回	CSWに求められる障がい者支援① -障害の社会モデル、障害者権利条約対日審査-
	授業計画第2回	CSWに求められる障がい者支援②-障がい者差別解消にかかる演習、仙台市青葉区高齢者障害者会議の取り組み-
学修に必要な準備	時事問題を扱いますのでニュース等に関心を寄せてください。	
テキスト	特に用いません。授業の際に配布する資料とパワーポイントのスライドを利用して授業を行います。	
履修上の注意	障がい者支援を中心に授業を行います。地域共生社会実現への観点から様々な立場の方の受講を勧めます。	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	○実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業
備考		

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス				
授業開講年度	2024年度				
科目分類				特論演習	
必選区分				選択科目	
科目名称	特論演習:精神障がい者支援と地域社会				
担当者	菅原里江【東北福祉大学】:2コマ(3時間)				

テーマ	・精神障害者を取り巻く地域社会の現状と課題 ・課題解決に向けた地域における支援者の役割		
講義内容	□精神障害を抱える人について知る わが国において精神障害者が置かれてきた状況を把握します。それをふまえ、国がどのような対策を行ってきたか、精神保健福祉士の国家資格が何故求められたか、地域においてソーシャルワーカーが果たす役割とは何かについて理解します。 □課題を解決または緩和するための支援者の役割について知る 事例を用いて、本人、家族、地域、社会へ働きかける支援者の役割について理解します。		
達成目標	・精神障害を抱える方の現状を理解し説明できるようになる。 ・地域で生活する人としての精神障害者を理解し、置かれている状況についてアセスメントする力を醸成する。		
授業計画	授業計画 第1回	精神障害者の理解ー病と障害の併存、生活のしづらさー 精神疾患を抱える人を対象としたSW視点	
	授業計画 第2回	精神障害者を対象とした地域での取り組み 事例を用いたソーシャルワークの検討ニーズ把握	
学修に必要な準備	特にありません。		
テキスト			
履修上の注意			
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業
備 考			

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス				
授業開講年度	2024年度				
科目分類				特論演習	
必選区分				選択科目	
科目名称	特論演習：SDGsと地域社会				
担当者	紅 邑 晶子【一般社団法人SDGsとうほく】：2コマ（3時間）				
テーマ	・SDGsと地域社会との関係、活動の実際				
講義内容	SDGsの17目標と地域社会の課題は、いずれも何らかの関係があります。この17の目標はCSWの活動にも密接な関係があるのですがまだこのことについて学ぶ機会が少ないのが現状です。本講座では、SDGsとはどういうものか、またCSWの活動にどのように活用できるかを学びます。				
達成目標	・SDGsについての理解が深まる。 ・パートナーシップで地域課題を解決することを考え、CSWの活動につながるSDGs的アクションプランを創り出す。				
授業計画	授業計画第1回	SDGsを理解する。SDGsとは、SDGsの実践例の紹介（自治体・企業・NPO/ NGO,）			
	授業計画第2回	・ワークショップを行って受講生自身とSDGs、所属している団体とSDGs、自分の担当している仕事とSDGsについて考える。 ・SDGsを活用している事例発表。地域課題について現状・課題解決した状況について、またCSWが担う役割について話し合うワークショップを行う。 ・ワークショップを踏まえて、SDGsを活用した解決策についてアクションプランを話し合い・発表する。			
学修に必要な準備	外務省のSDGsとはのHPを事前に読んでくる。 https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html				
テキスト					
履修上の注意					
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業			○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	○実務家教員や実務家による授業			実地での体験活動を伴う授業	
備 考					

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス				
授業開講年度	2024年度				
科目分類				特論演習	
必選区分				選択科目	
科目名称	特論演習:災害とコミュニティソーシャルワーク				
担当者	渡邊圭【東北学院大学】:2コマ(3時間)				

テーマ	災害時にコミュニティソーシャルワークに求められる機能・役割を理解する		
講義内容	1. 災害対応の枠組みとなる災害マネジメントモデルの理解 2. 防災～災害後対応～復旧・復興というプロセスとコミュニティソーシャルワークの関係を理解する		
達成目標	1. 災害マネジメントサイクルモデルに沿った形での社会福祉/ソーシャルワークからの災害対応のあり方を理解する 2. コミュニティソーシャルワークからの災害対応のあり方を考える		
授業計画	授業計画第1回	日本における災害対応の史的展開と社会福祉、ソーシャルワークの関わりを理解する	
	授業計画第2回	災害マネジメントモデルに沿った支援の検討、およびキー概念となる”Vulnerability”と”Reseilience”の理解	
学修に必要な準備	「災害救助法」「被災者生活再建支援法」について概要程度で構わないので事前の一読ください。		
テキスト	講義時に配布する資料を基に講義を行うため特に必要はありません。		
履修上の注意	特になし		
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業
備 考	参考文献 ・大島隆代『地域生活支援の理論と方法を探る：東日本大震災の支援フィールドにおける実践分析から』中央法規出版社		

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス				
授業開講年度	2024年度				
科目分類				特論演習	
必選区分				選択科目	
科目名称	特論演習：三次救急病院からの地域移行支援				
担当者	澤井彰【仙台市立病院】：2コマ（3時間）				

テーマ	三次救急病院における医療ソーシャルワーカーの役割・機能及びその効果/地域移行の現状と課題	
講義内容	1.急性期病院における医療ソーシャルワーカーの業務内容・役割・機能について理解する 2.医療機関におけるソーシャル・ハイ・リスクの概念について 3.急性期病院から地域関係機関にどのように患者・家族を繋いでいるか、地域移行の現状と課題を理解する	
達成目標	1.急性期病院における医療ソーシャルワーカーの業務内容や役割等を理解する。 2.医療ソーシャルワーカーが退院支援や地域移行支援を行う上での現状と課題について理解する。	
授業計画	授業計画 第1回	医療ソーシャルワーカーの業務に関して -業務内容・院内の役割・地域における機能-
	授業計画 第2回	三次救急病院からの地域移行支援の現状と課題について
学修に必要な準備	特に必要な準備はありません。	
テキスト	講義時に配布する資料を基に講義を行うため、特に必要ありません。	
履修上の注意		
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	○実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業
備考	参考文献：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 「保健医療と福祉」 中央法規(2021) 救急認定ソーシャルワーカー認定機構研修・テキスト作成委員会 「救急患者支援-地域につなぐソーシャルワーク 救急認定ソーシャルワーカー標準テキスト」 へるす出版(2017)	

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス				
授業開講年度	2024年度				
科目分類					事例研究
必選区分				選択科目	
科目名称	事例研究: 仙台市におけるコミュニティソーシャルワーク				
担当者	小川琢也【仙台市社会福祉協議会】: 2コマ(3時間)				

テーマ	仙台市における先取的な事例紹介と演習形式での検討		
講義内容	仙台市社会福祉協議会におけるコミュニティソーシャルワーカー（CSW）の歩みや主な活動内容について、実際の取り組み（地域づくり事例や複雑化・複合化した個別課題事例等）による演習形式を交えながら、活動上の課題や成果、過程等を示し、これからのCSWの活動のあり方を一緒に考える内容とする。		
達成目標	コミュニティソーシャルワーカーが持つべき基本的な視点や役割、姿勢等について、受講者が実践的且つ主体的にとらえることができるようにする。		
授業計画	授業計画第1回	仙台市社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカーの現状と活動事例	
	授業計画第2回	コミュニティソーシャルワーカーの役割について 一個別の困りごとから地域福祉活動の展開を考える（演習）－	
学修に必要な準備	特にありません。		
テキスト	講師が作成し、事前送付又当日持参します。		
履修上の注意	なし		
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	○実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業
備考			

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス				
授業開講年度	2024年度				
科目分類					事例研究
必選区分				選択科目	
科目名称	事例研究:南三陸町におけるコミュニティソーシャルワーク				
担当者	高橋吏佳【南三陸町社会福祉協議会】:2コマ(3時間)				

テーマ	南三陸町における震災からの事例紹介と演習形式での検討	
講義内容	CSW(コミュニティソーシャルワーク)の手法を活用した住民主体の被災者支援活動について、南三陸町を事例として取り上げ、東日本大震災以降の沿岸部における復興のまちづくりへの影響と実践活動の持つレジリエンス及びその中にある理論について演習形式で検討します。	
達成目標	被災者支援システムの中に織り込まれている社会学的知見と被災者支援から地域福祉への移行に関わる仕掛けについて理解出来るようになる。	
授業計画	授業計画第1回	南三陸町における被災者支援から地域づくりへの実際について。
	授業計画第2回	アクティブ・ラーニング(active learning)手法を用いて、被災者支援から地域づくりへの実際を科学する。
学修に必要な準備	特に準備は必要ありません。	
テキスト	特に用いません。授業に際して配布する講義資料を用いて講義します。	
履修上の注意	講義に際しては、積極的な参加を期待(前提と)しています。	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	○実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業
備 考		

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス				
授業開講年度	2024年度				
科目分類					事例研究
必選区分				選択科目	
科目名称	事例研究:柴田町におけるコミュニティソーシャルワーク				
担当者	相原美由紀【柴田町地域包括支援センター】:2コマ(3時間)				

テーマ	地域包括支援センターの事業と相談事例等を通して包括の役割を学ぶと共に地域共生について考える		
講義内容	地域包括支援センターの地域に向けた介護予防事業や、様々な相談事例を通して、地域包括支援センターの役割を知って頂くと共に、高齢者への関わり方(個別支援)と家族や地域住民へのアプローチ・事業所や医療機関、行政との連携(地域包括ケア)について受講生の皆さんと共に考えたいと思います。		
達成目標	地域包括支援センターの役割について理解を深める。 介護予防の必要性と地域との関わりについて理解を深める。		
授業計画	授業計画 第1回	お元気な高齢者が増えていくために地域包括支援センターが取り組んでいる介護予防事業と高齢者支援のポイントについて、主にパワーポイントを使用し説明します。	
	授業計画 第2回	地域包括支援センターに寄せられる相談事例を基に、意見交換をしながら進めていきます。	
学修に必要な準備	特にありません。		
テキスト	必要に応じ当日プリントを配布します。 授業の際はパワーポイントを使用します。		
履修上の注意	参加型の授業にしたいので、活発なご意見をよろしくお願いします！		
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	○実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業
備 考			

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス				
授業開講年度	2024年度				
科目分類					事例研究
必選区分				選択科目	
科目名称	事例研究:地域活動とコミュニティソーシャルワーク				
担当者	増田恵美子【Naritaマルシェ】:2コマ(3時間)				

テーマ	「ここに住んで良かった」と思える地域にするために大切なこと	
講義内容	「Naritaマルシェ」(富谷市成田地区)は、地域住民が自主的・主体的に実践している活動です。コロナ禍においても、自分たちの責任のもとに、できることを実践し、さらに活動をその時々ニーズを踏まえて発展させています。地元に軸足を置いて活動を続ける原動力となる「想い」や「願い」の大切さをお伝えします。また、地域活動への参加が進まないとされる若者や男性にとっても居場所となっている理由について、共に考えたいと思います。	
達成目標	「地域づくり」への意欲を高め、「住民が持っている地域づくりの可能性」や「活動を支える動機の大切さ」についての学びを深める	
授業計画	授業計画第1回	「Naritaマルシェ」の活動紹介:立ち上げから現在までの歩みと学び
	授業計画第2回	性別問わずあらゆる年代が集う理由について、受講生と対話しながら学ぶ
学修に必要な準備	特に準備は必要ありません。	
テキスト	配布資料を使用します。	
履修上の注意	地域づくりへの夢と意欲をもって共に授業を創造してくださることを期待します。	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	○実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業
備 考		

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス				
授業開講年度	2024年度				
科目分類					事例研究
必選区分				選択科目	
科目名称	事例研究: 成年後見制度とコミュニティソーシャルワーク				
担当者	千脇隆志【社会福祉士事務所いりは】: 2コマ(3時間)				

テーマ	成年後見と権利擁護活動について、実践事例の紹介と演習での検討		
講義内容	・専門職後見人(社会福祉士)としての実践事例について紹介しながら、権利擁護活動について学びます。 ・意思決定支援を踏まえた、後見事務について学びます。 ・権利擁護活動における、成年後見人(未成年後見人)の役割等について演習形式で検討します。		
達成目標	成年後見や権利擁護に関する基本的な知識・技術等を理解することができる。		
授業計画	授業計画第1回	成年後見制度における権利擁護活動について ～独立型社会福祉士権利擁護から～	
	授業計画第2回	成年後見と権利擁護活動の実践について(演習を含む) ～意思決定支援として～	
学修に必要な準備	特段、準備等は必要ありません。		
テキスト	当日、資料を配布します。 講義の際は、パワーポイントを使用します。		
履修上の注意			
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	○実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業
備考			

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス				
授業開講年度	2024年度				
科目分類					事例研究
必選区分				選択科目	
科目名称	事例研究：東京都豊島区におけるコミュニティソーシャルワーク〔遠隔授業〕				
担当者	田中慎吾【豊島区民社会福祉協議会】：2コマ（3時間）				

テーマ	東京都豊島区における取組み紹介と演習形式による検討	
講義内容	豊島区民社会福祉協議会におけるコミュニティソーシャルワーク事業の実施体制、機能、実際の取組みや課題について紹介します。また、事例を用いた演習を通して、コミュニティソーシャルワーク実践の展開について、ともに考える場とします。	
達成目標	地域（地域性）の違いによって異なるコミュニティソーシャルワークの展開方法やについて理解を深める。 演習を通して、コミュニティソーシャルワーカーとしての姿勢や視点について、受講生それぞれの立場や業務にひきつけて考えられるようになる。	
授業計画	授業計画第1回	（講義）東京都豊島区におけるコミュニティソーシャルワーカーの取組み紹介
	授業計画第2回	（演習）複合的な課題を抱えた個人や家族へのアプローチ事例、ストレングス視点による地域での参加（活躍）支援事例、など
学修に必要な準備	特にありません。	
テキスト	特にありません。講義の際はパワーポイントを使用します。	
履修上の注意		
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	○実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業
備考		

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス				
授業開講年度	2024年度				
科目分類					事例研究
必選区分				選択科目	
科目名称	事例研究: ボランティア活動支援の実際				
担当者	渡邊圭【東北学院大学】: 2コマ(3時間)				

テーマ	地域でのボランティア活動に対してCSWはどのような関わりができるかを考える	
講義内容	1. ボランティアコーディネート、ボランティアマネジメントについての理解 2. 地域におけるボランティア活動に対するCSWとしての支援のあり方や関わり方を理解する	
達成目標	1. 地域におけるボランティア活動への支援の実態を理解する 2. ボランティア活動支援としてのボランティアコーディネート、ボランティアマネジメントについて理解する	
授業計画	授業計画第1回	ボランティア活動への支援の実際を理解する
	授業計画第2回	ボランティア活動支援に向けたCSWとしての役割と関わり方を理解する
学修に必要な準備	NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会のホームページに掲載の「ボランティアコーディネーターとはINDEX」(https://jvca2001.org/whats_vco/)に掲載されている内容を確認してください。	
テキスト	講義時に配布する資料を基に講義を行うため特に必要はありません。	
履修上の注意	特になし	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業
備考		

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス
授業開講年度	2024年度
科目分類	報告会(グループワーク)
必選区分	必修科目
科目名称	中間報告会(グループワーク)
担当者	渡邊圭【東北学院大学】: 2コマ(3時間)

テーマ	本スキルアッププログラムにおける学修状況の中間確認	
講義内容	CSWスキルアッププログラムの半年間の受講によって各受講生の学修成果の確認を行います。学修成果の確認にあたっては、事前提示の課題に基づくグループワークを実施し、コミュニティソーシャルワーカーとして求められる役割・機能について、受講生間で議論/意見交換を行います。	
達成目標	1. どのようなコミュニティソーシャルワークの機能やコミュニティソーシャルワーカーとして求められている役割を理解する 2. 本プログラムの学修成果等を中間地点で確認し、目指すコミュニティソーシャルワーカーとしての目標を設定する 3. 標像実現に向け、今後の本プログラムにおいて、何を身に付けるべきか/学修すべきかを検討し、中間報告以降の学習計画を立案する。	
授業計画	授業計画第1回	地域共生社会にて求められるコミュニティソーシャルワーカーの役割・機能の理解
	授業計画第2回	目指すべきコミュニティソーシャルワーカー像の設定と、グループワークを通してのその全体共有
学修に必要な準備	受講開始時に立てた個人目標等(本プログラムを通して身に付けたいスキル・能力等)を再度確認のうえ、出席してください。	
テキスト	特にありません。必要に応じ、配付資料を準備します。	
履修上の注意	グループワーク、発表ともに積極的な参加を求めます。	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業
備考		

2024年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス	
授業開講年度	2024年度	
科目分類	報告会(グループワーク)	
必修区分	必修科目	
科目名称	最終報告会(グループワーク)	
担当者	渡邊圭【東北学院大学】: 2コマ(3時間)	

テーマ	本スキルアッププログラムでの「学び」の可視化	
講義内容	1年間のプログラムの学修成果の確認として自己評価を行い、その評価を受講生間で共有(言語化)することで、プログラムでの学修を踏まえ、地域福祉の推進に向けたコミュニティソーシャルワーク機能とその役割を理解する。	
達成目標	(1) 地域福祉推進にむけてのコミュニティソーシャルワーカーの役割・機能を理解する (2) 本プログラムを通じて得られた成果—知識・技術—についての自己評価を実施する (3) 本プログラムを通じて得られた学修成果及び自己評価を受講生間で共有し理解を深める	
授業計画	授業計画第1回	地域福祉推進に向けたコミュニティソーシャルワーカーの役割・機能を理解する
	授業計画第2回	本プログラムによる学修成果の確認とその共有
学修に必要な準備	事前学修として、これまでのプログラムでの学びの振り返りを行う。	
テキスト	特にありません。必要に応じ、配付資料を準備します。	
履修上の注意	グループワーク、発表ともに積極的な参加を求めます。	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業
備考		